



豪華! 2本立興行

波多利朗の Funky Goods

Part.2

これぞ世紀末を彩るキーボード
Maltron & BAT が織りなすギークな世界

固定概念を覆す怪しさたっぷりの
キーボードに再びこだわる!



イラスト: Ree(スタジオ・ぶー)

本誌1月号で「キーボードにこだわる!」という特集が掲載された。今回の内容はその特集に間に合わせるはずのものだったが、いかんせん多忙であったため、やっと今月号でお届けすることができる。

さて、筆者は本誌94年9月号、10月号に渡り、「Funky Goods in 秋葉原」にて「キーボードにこだわる」と題した記事を執筆した。また、94年5月号では、まだ日本ではほとんど知る人のいなかったKinesis CorporationのERGONOMIC KEYBOARDを取り上げた。というわけで、キーボードと聞くと黙ってはいられない。

先日も、いったいいくつのIBM互換機用キーボードを所有しているのか数えてみよう、と、ちょっと探したところ、出てくるわ出てくるわ……。全部で20枚以上はあるはずなのだが、結局、保管している場所がバラバラなので正確な数は依然不明といった状態である。

とは言え、1月号の特集に乗り遅れてしまったので、当たり前の内容ではやはりインパクトに欠けるだろう。そこで「波多利朗のFunky Goods」にふさわしい、一風変わった製品を2つご紹介しよう。

ふと、いまどうなっているのか気になり、訪問してみることにした。

久しぶりに訪れた科学教材社はすっかり改装されており、明るくてきれいなショップに変身していた。反面、以前のジャンクショップ的な怪しさが見られなくなったようで、この点は残念である。

置いてある商品も、筆者が記憶していたジャンクまがいのものは影をひそめ、工作材料やキット類、鉄道模型関連と、東急ハンズ的なものに入れ替わっている。

しかし、そこはやはり科学教材社、探せば怪しいものが……。

店内の一番奥の目立たないところに置かれていた2つの箱が目についた。並三ラジオ用の基幹パーツが入っている箱である。ひとつはST管^(注3)である6C6検波管を使用したラジオキットで、6C6とシールドケース、UZソケット、並四コイル、バリコンと豆コン、電源用電解コンデンサと電源スイッチがセットになっている。もうひとつは、真空管がMT管である6AU6に変わっているだけで、構成はほとんど同じものだ。価

注1)『ぼくらの鉾石ラジオ』
小林健二著、筑摩書房刊、
1997年9月15日初版発行。

すでに2刷であることを考えると、この手のマニア諸氏の間ではかなり評判になっているものと思われる。ここに掲載されている鉾石ラジオの復刻方法はすごい。コイルはもとより、必要とあらばヴァリコンまで自作してしまうのには、ただただ感心するばかりである。

注2)「科学教材社」

目立たない場所にあるため、訪問する場合はあらかじめ地図で場所を確認しておいたほうがよいだろう。住所は下記のとおりだ。
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
TEL 03-3291-7271

注3) ST管

真空管の種類には古い順に、ナス型、ST管、GT管、MT管、サブミニチュア管といったものがある。

ST管には4本足のものから7本足のものまでがあり、それぞれ専用のソケットが用意されていた。4本足用のソケットをUX型、5本足用ソケットをUY型、6本足用ソケットをUZ型、7本足用ソケットをUI型と称する。

電気工作に熱中していた頃を 思い起こさせる科学教材社

今回も、本題とは関係のない話題から始めることにする。

先日、書店をうろついていたら、『ぼくらの鉾石ラジオ』^(注1)という非常に面白い本を発見した。筑摩書房刊のその本には、さまざまなタイプの鉾石ラジオが紹介され、その復刻方法について詳細に記述してある。幼い頃から工作が好きな向きにとっては、たまらない内容だろう。付録には「材料入手方法」の項があり、ここに「科学教材社」^(注2)が掲載されていた。

科学教材社は、「知る人ぞ知る」という表現がぴったりのパーツショップである。筆者も、小学生の頃から入り浸っていた記憶がある。東京都千代田区神田錦町にあり、地下鉄神保町駅から徒歩10分ほど、電機大の裏手に位置する。筆者が通っていた頃は、ショップというより倉庫と表現したほうがよいような雰囲気、薄暗い店内のそこかしこに商品がまさに「散乱」しており、かなりカルトでヘビーな店舗であった。

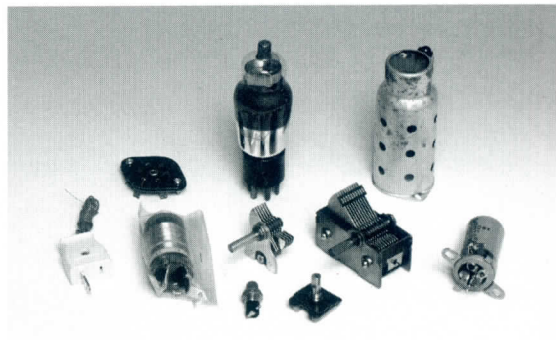


写真1 科学教材社で入手した並三ラジオ用の基幹部品

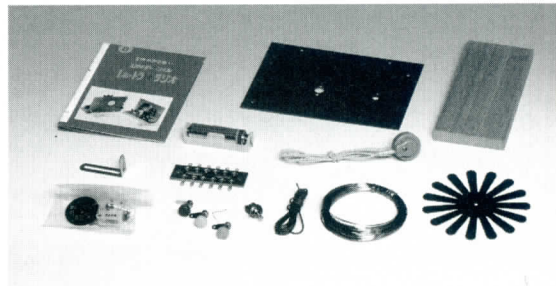
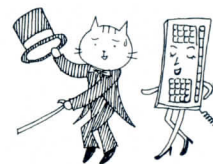


写真2 スパイダー式コイルを使用した1石トランジスタ検波ラジオキット





●並三ラジオ——MT管を使用した3球ラジオキット

唐突だが、並三ラジオについて述べる(コンピュータとはあまり関係ないが……)。

並三ラジオという言葉聞いて懐かしいと感じる人は、かなり年配の方だろう。このタイプのラジオは、昭和初期に登場した。「並」とは普通という意味であり、「三」は使用している真空管の本数を表わす。

この並三ラジオが登場する前には、3極管を使用した4球ラジオがあり、これは並四ラジオと呼ばれていた。この並四ラジオに使用されたコイルが、並四コイルと呼ばれているものである。

並四ラジオが登場したあと、高性能の4極管、5極管が出現し、並四ラジオと同程度の性能を真空管3本で実現できるようになり、並三ラジオが用いられるようになった。

並三ラジオは、検波管、増幅管、整流管の3本の真空管で構成されている。ST管で構成した場合、検波管には6C6を使用し、増幅管には42もしくは6ZP1が定番として使用された。また、整流管には80HKなどが用いられた。MT管で構成した場合、検波管には6BA6、増幅管には6AR5、整流管には5M-K9が定番として使用された。

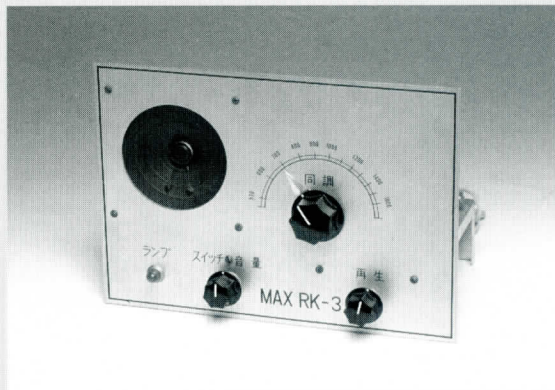
写真A～Cは、1968年頃に販売されていた、MT管を使用した3球ラジオキットである。

並三ラジオは、検波回路に再生方式と呼ばれるものを採用していた。これは、検波増幅された出力のうち、高周波成分を再度同調コイルに戻して結合させ、感度をアップする方法である。この再生方式は、一種の正帰還回路と言うことができ、帰還量の調整には豆コンと呼ばれるバリコンの小型版を使用した。並三ラジオには、当初出力ボリュームが付いていなかったが、これは、豆コンを調整することで音量を調節することができたからである。

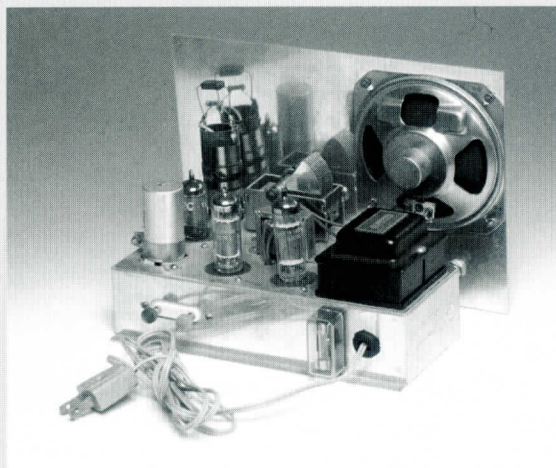
並三ラジオを作成されたことのある方ならご存知だと思うが、アンテナを付けないと放送を聞くことができない。アンテナはかなりの長さが必要である。筆者の場合、6～7m程度のアンテナを家の外に張って聴いた記憶がある。

格は、それぞれ3000円ちょっとである(写真1)。

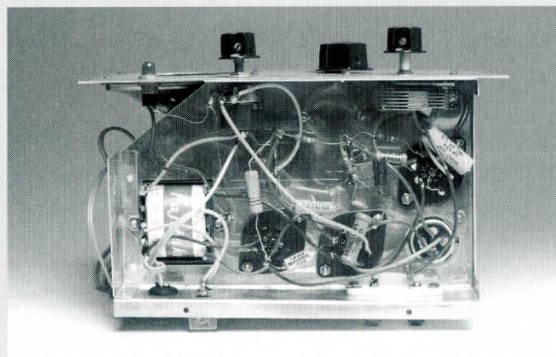
この手のラジオパーツ収集家の方ならよくご存知だと思うが、いまとなつては、並四コイルやシールドケース、バリコンや豆コンは入手がきわめて困難である。また、販売されていたとしても、コイルひとつで2000～4000円もしてしまうので、このセットはかなりのお買い得だと言える。



写真A 1968年頃の3球ラジオキットの外観



写真B 3球ラジオキットの内部



写真C 3球ラジオキットの配線部分

筆者は以前から真空管式ラジオのパーツを収集しているのですが、当然購入してきたが、1セットしか置かれていなかったのも、おそらく同店ではもう入手困難だろう。

このほかにも、懐かしいキットを扱っていた。

スパイダー式コイル(注4)を使用した1石トランジスタ検波ラジオキット(1680円)(写真2)は、コイルの形が

注4) スパイダー式コイル
ラジオ用のコイルといえば、筒型に巻かれたソレノイドコイルが一般的だが、スパイダーコイルというのは、その名のとおりに「蜘蛛の巣」のように巻かれたコイルである。羽の数が15個くらいの巻き枠にエナメル線を巻き付けて作成するものだ。



アンティークでなかなかいい味を醸し出している。これは科学教材社のヒット商品であり、在庫もまだあるだろう。小中学生の頃に電気工作に夢中になった方は、一度訪れてみてはいかがだろうか？

QWERTY/Maltron 配列を切り換えられる Maltron Ergonomic Keyboard

本題に入ろう。

ご紹介するキーボードの第1弾は、TelePrint Systems社の「Maltron Ergonomic Keyboard」(以下、Maltron キーボード)である。まずは外観をご覧ください(写真3)。Kinesis社の「ERGONOMIC KEYBOARD」と雰囲気は似ているが(写真4)、デザイン的にはかなり無骨(注5)で見る者にインパクトを与える。

アルファベットキーは、左右の凹面の部分に配置されている。中央部にはテンキーが置かれ、Space キーやEnterキー、カーソルキーなどは手前に、これも左右に分かれて配置されている。キーボード本体は薄いプラスチックでできており、加工精度はお世辞にも良いとは言えない。持ってみると驚くほど軽い。全体的に安っぽい印象を受けるが、そこがまた怪しい雰囲気(注5)に磨きをかけている(写真5、6)。

このMaltron キーボードの特徴は、その奇抜な外観

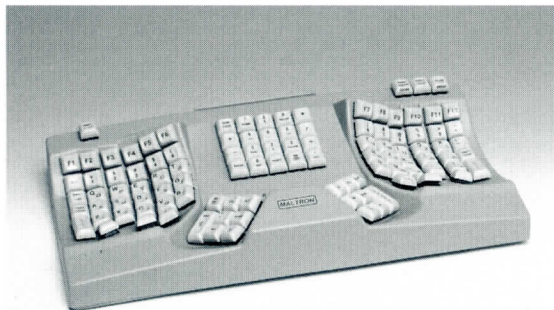


写真3 Maltron/QWERTY キーボードの外観

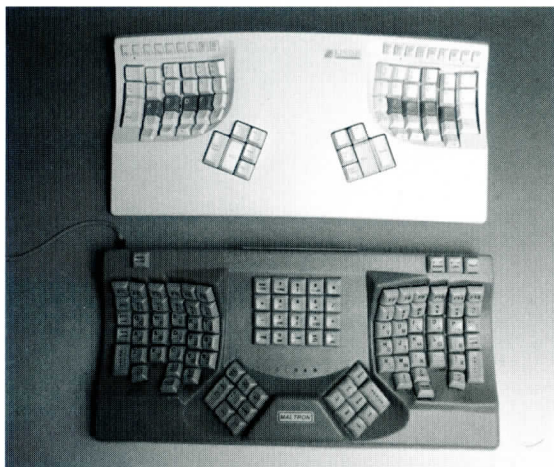


写真4 ERGONOMIC KEYBOARD(上)とMaltronキーボード。外観は似ている

注5) デザイン的にはかなり無骨

キーボードの筐体はベコベコのプラスチックでできており、まるでプロトタイプのような。写真5からおわかりのように、キーもスイッチがそのままむき出しでくっついていて、「MALTRON」のロゴにいたっては、安っぽいシールを貼り付けてあるだけだ。キーボード上に配置されているLEDも、NUM LOCKやCAPS LOCKといった機能が表示されていない。相当怪しい雰囲気を醸し出している。キーボードとしては非常に美しいフォルムを持つKinesis社の製品とは大違いである。なお、キーはクリック感がないタイプである。

注6) キーボード裏面

まるでカッターで無造作に切断したような穴が2個開いている。片方の穴からは基板上に実装された8連のDIPスイッチが見え、もう一方の穴からは、同じく基板上に実装されたリセットスイッチが見える。なお、「Reset」といった文字は、どこにも書かれていない。製品のシリアル番号などを示した銘板は、ラベルにドットプリンタで印刷したものがベタッと貼り付けてあるだけだ。

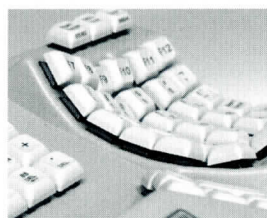


写真5 Maltron キーボードのキースwitchのアップ



写真6 ログシールは、手前のセンターに記されている

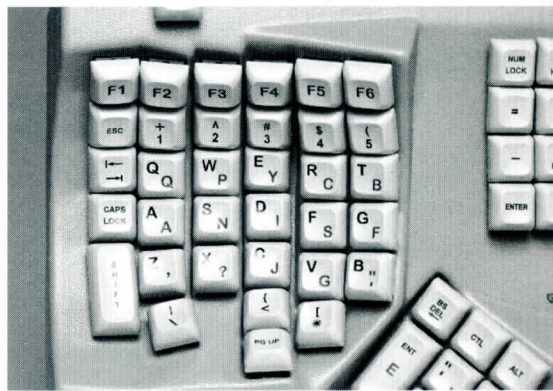


写真7 Maltron キーボードのキートップ

だけでなく、キー配列にも見られる。カラーでお見せできないのでわかりにくいですが、キートップには通常のQWERTY配列のほかに緑色で示した特殊な配列も記載されている(写真7)。これがMaltron配列と呼ばれるもので、QWERTY配列に加えて、Maltron配列のキーボードとしても使用することが可能となっている。

図1にQWERTY配列時のキーレイアウトを、図2にMaltron配列時のキーレイアウトを示す。

Maltron配列は、キー入力の効率アップを目的に考案されたもので、使用頻度の高いキーを最も少ない指の移動で押し、ミスタッチが少なくなるように配置されているという。ホームポジションに両手を置くと、QWERTY配列では左手にasdf、右手にjkl;のキーがくるが、Maltron配列ではそれぞれ、anis、thorのキーとなり、左手親指がeキーに、右手親指がSpaceキーに割り当てられている。

このMaltron配列は当然すぐに使いこなすことはできず、Maltronトレーニングマニュアルを参考に練習する必要があるが、要は「慣れ」であることに変わりはない。

キータッチだが、クリック感はないもののキーストロークが深いため、ミスタッチは起こりにくいといえよう。ホームポジションに手を置くと、キーボードの窪みが両手にぴったりとフィットする。

キーボードコネクタは、5ピンDINタイプのATコネクタが付いている。キーボード裏面(注6)には、8連にDIPスイッチが設けられており、各種設定を行うことができる。以下にDIPスイッチでの設定を示す。

・SW1 ON : XTタイプのキーボードとして使用



図1 Maltron キーボードの QWERTY 配列

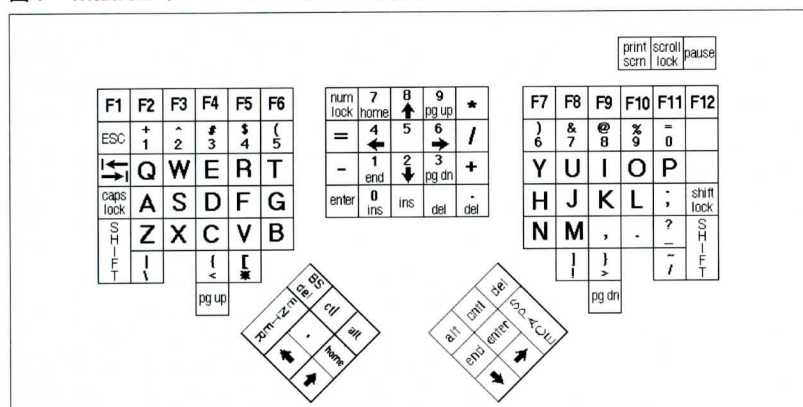
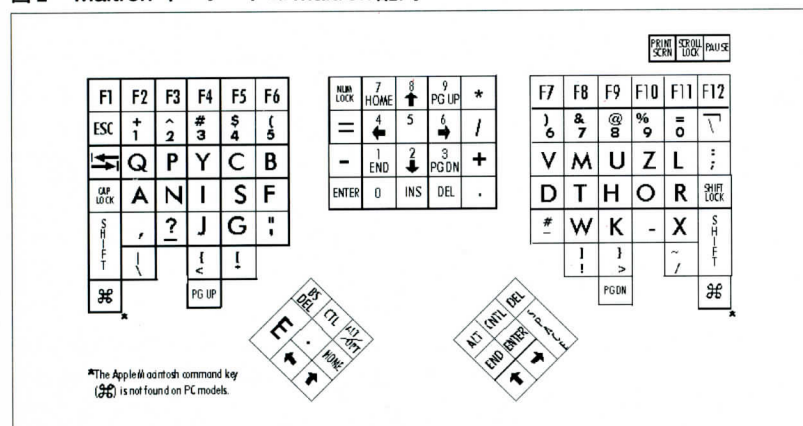


図2 Maltron キーボードの Maltron 配列



OFF : AT タイプのキーボードとして使用

・SW2 常時OFF

・SW3 常時OFF

・SW4 ON : Maltron キー配列として使用

OFF : QWERTY キー配列として使用

・緑 : Maltron 配列として使用

・黄 : QWERTY 配列として使用

・赤 : CAPS ロック状態

・赤 : Num ロック状態

・赤 : Shift ロック状態

なお、TelePrint Systems社は、ホームページを開設している(画面1)。URLは、以下のとおりだ。

<http://www.teleprint.com/index.html> (注7)

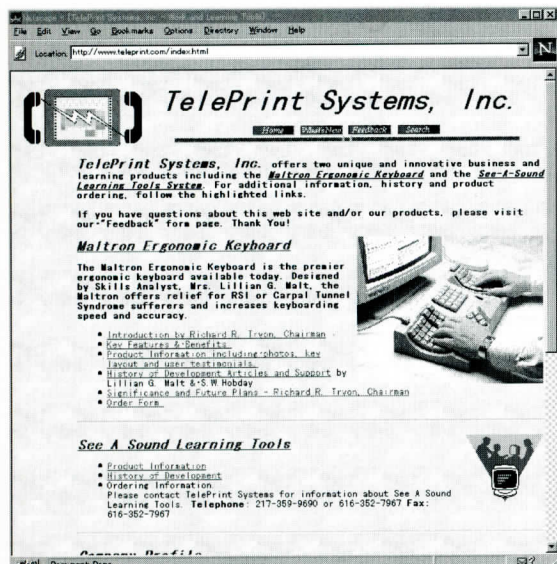
同ページには、Maltron キーボードの詳細な説明が掲載されている。ここでは、Windowsベースマシン用のMaltron キーボードの価格は175ドルと記載されている。筆者がこのキーボードを購入したときの価格もおよそこれくらいだったと記憶しているが、同キーボードを販売している他のショップでは295ドルという価格をつけているところもあり、販売価格はまちまちであると思われる。

片手ですべての文字が入力できる BAT Personal Keyboard

第2弾は、Infogrip社が制作した、片手ですべての文字が入力できるキーボード「BAT Personal Keyboard」(以下、BATキーボード)である(写真10)。これもかなり

注7) <http://www.teleprint.com/index.html>

メンテナンス中なのかわからないが、ときどきアクセスできなくなることがある。



画面1 TelePrint Systems 社のホームページ
(URL : <http://www.teleprint.com/index.html>)

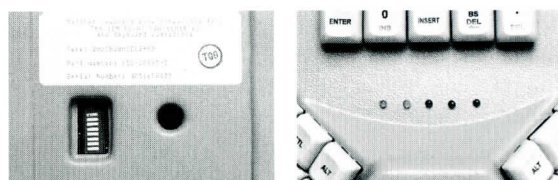


写真8 8連DIPスイッチとリセットスイッチ

写真9 キーボード上に配置されたLED

・SW5 常時OFF

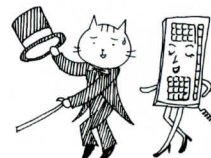
・SW6 常時OFF

・SW7 常時OFF

・SW8 常時OFF

また、設定用DIPスイッチの横にはリセットボタンがある。これもキーボードとしては珍しい(写真8)。

キーボード上には5個のLEDによるインジケータがあり、設定により点灯するようになっている。このインジケータはただLEDが配置されているだけでなんの表記もなく、見ただけではなにがなんだかわからない(写真9)。左から、緑、黄、赤、赤、赤と並んでおり、それぞれの意味は以下のとおりである。





注8) 右手用と左手用の2種類が用意されている

BATキーボードにはMac版とPC版の2種類があり、それぞれに右手用、左手用、左右両方が用意されている。したがって、製品としては下記の6種類となる。

- ・Mac LEFT
- ・Mac RIGHT
- ・Mac DUAL
- ・PC LEFT
- ・PC RIGHT
- ・PC DUAL

DUALというのは、パッケージに右手用と左手用の両方が入っていることを意味する。しかし、この手のキーボードを左右の手で同時に使用するという状況は、考えてみると、かなり異様ではある。

注9) 全部で7個である

これらの7個のキーは、いずれもクリック感のないタイプのものである。

注10) この組み合わせを習得するのが多少厄介だ

製品には、入力する文字とキーの操作方法を対応させたリファレンスガイドが付属している。

奇抜な外観をしており、右手用と左手用の2種類が用意されている(注8)(写真11)。これらはキーの配置が左右対称になっているだけで、基本的には同一のものである。

BATキーボードは、マウス操作を多用するようなアプリケーションを使用する場合に威力を発揮する。通常のQWERTY配列のキーボードでは、マウス操作を行う場合には右手(もしくは左手)をいったんキーボードから離さなくてはならなかった。しかし、このBATキーボードを使用すれば片手ですべての文字が入力できるため、右手でマウスを持ち、左手をBATキーボードに置くことで、マウス操作もテキスト入力もスムーズに行える。

ここでは、左手用のBATキーボードの構造について解説する。

BATキーボードのキーの数は、全部で7個である(注9)。この7個のキーを組み合わせることで、すべての文字が入力できるようになっている。7個のキーは、4個と3個の2つのブロックに分かれて配置されており、4個のキー・ブロックはすべてグレーだが、3個のキー・ブロックは赤、グレー、青の3色に分かれている。

この3個のキーの上には、ステータスインジケータである赤、黄、青のLEDが配置され、キーボード前面にはアームレストが設けられている。

BATキーボードの側面にはキーボードケーブルを接続するためのポートが2基装備されている(写真12)。実はこのBATキーボードは、通常のQWERTY配列の

キーボードもカスケード接続により同時に使用できるようになっているのだ。コネクタの形状は、5ピンDINのメスコネクタと5ピンMini DIN メスコネクタである。



写真12 BATキーボードのケーブル接続用ポート

デスクトップPCとの接続には、BATキーボードに付属するケーブルを使用する。パソコン本体のキーボードコネクタと、BATキーボードの5ピンMini DINコネクタとを付属のケーブルで接続するが、BATキーボードと同時にQWERTY配列のキーボードも使用する場合には、BATキーボードの5ピンDINコネクタにQWERTY配列のキーボードを接続すればよい。

さて、このキーボードの実際の使用法だが、4個のキー・ブロックは、それぞれ小指、薬指、中指、人差し指で操作し、3個のキー・ブロックはすべて親指で操作する。これがホームポジションとなる(図3)。

7個のキーですべての文字を入力するので、キーを組み合わせる必要がある。この組み合わせを習得するのが多少厄介だ(注10)。

キー入力は、基本的に親指とその他の指の組み合わせで行う。たとえば、小文字の「a」を入力する場合には、親指でグレーキーを押し、人差し指と中指と薬指をそれぞれ押すことによって入力できる。これらの状態を表わすと、以下ようになる。

<小文字の「a」の入力方法>

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| ☐ | ←小指 |
| ☒ | ←薬指 |
| ☒ | ←中指 |
| ☒ | ←人差し指 |
| グレーキー | ←親指 |

■：キーを押した状態

□：キーを押していない状態

これらのキーを押すタイミングだが、すべてのキーを同時に押してもかまわないし、親指キーを先に押しながら他の3個のキーを押してもよい。また逆に、3

図3 Infogrip社のBATキーボードの操作方法

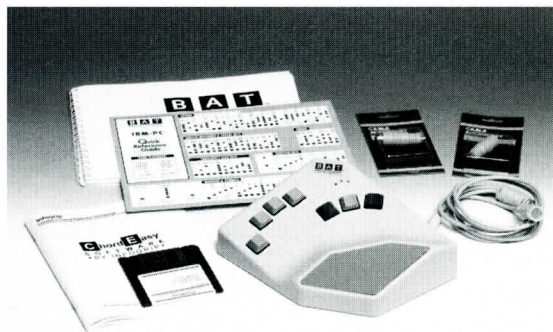
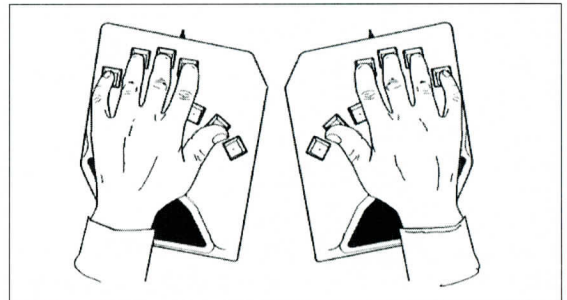


写真10 Infogrip社のBAT Personal Keyboardのパッケージ内容

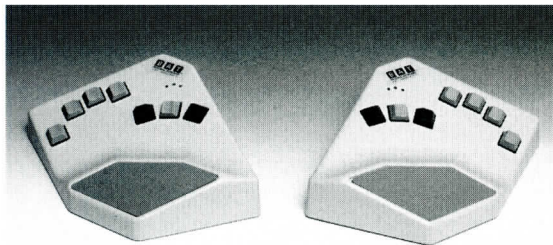


写真11 BATキーボードは、左手用と右手用が用意されている





個のキーを押してから親指キーを押してもかまわない。文字の入力は、キーを離れたときに行われるのである。

注意すべき点は、人差し指、中指、薬指で3個のキーを長い間(約0.5秒以上)押し続けてしまうと、小文字の「e」がリピート入力されてしまうことだ。これは、「e」を入力する場合は、親指キーを使用せずに前記の3個のキーを押すように設定されているためだ。

したがって、小文字の「e」は、人差し指、中指、薬指の3個のキーを押してすぐに離せば入力できる。この場合、3個のキーを長い間押す必要はない。

<小文字「e」の入力方法>

☐	←小指
☒	←薬指
☒	←中指
☒	←人差し指
親指キー	←使用しない
■：キーを押した状態	
□：キーを押していない状態	

また、「a」を入力する場合に親指キーを長い間押し続けてしまうと、今度は「スペース」が挿入されてしまう。スペースの入力は、親指でグレーキーを押すように設定されているからである。この場合、グレーキーを押してすぐに離すことによってスペースを入力できる。

<スペースの入力方法>

☐	←小指
☐	←薬指
☐	←中指
☐	←人差し指
グレーキー	←親指
■：キーを押した状態	
□：キーを押していない状態	

親指キーの動作だが、文字入力時には主に真ん中のグレーキーを使用する。一方、カーソルの移動や特殊キーなどを入力する場合には、青もしくは赤のキーを使うことになる。たとえば、「Enter」を入力する場合は以下のようなになる。

<「Enter」の入力方法>

☒	←小指
☐	←薬指
☐	←中指
☐	←人差し指
青キー	←親指
■：キーを押した状態	
□：キーを押していない状態	

また、「Ctrl」キーの入力は、以下のとおりである。

<「Ctrl」の入力方法>

☒	←小指
☒	←薬指
☐	←中指
☒	←人差し指
赤キー	←親指
■：キーを押した状態	
□：キーを押していない状態	

大文字を入力する場合はCaps Lockを行うが、これは、以下のようにキーを押すことで設定される。

< Caps Lock 状態への移行>

☒	←小指
☒	←薬指
☒	←中指
☒	←人差し指
青キー	←親指
■：キーを押した状態	
□：キーを押していない状態	

この状態ではキーボード上に配置された青のLEDが点灯し、以降の入力はすべて大文字となる。Caps Lock状態を解除するためには、もう一度前記のキー入力を行えばよい。

「Shift」状態にするには、以下のキー操作を行う。

< Shift 状態への移行>

☐	←小指
☐	←薬指
☐	←中指
☐	←人差し指
青キー	←親指
■：キーを押した状態	
□：キーを押していない状態	

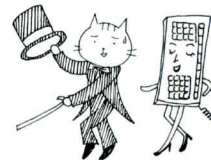
こうすると青いLEDが点滅を開始し、以降の入力は「Shift」キーが押された状態となる。この状態で文字を入力すれば、大文字として入力される。文字入力が終わればShift状態は解除される。

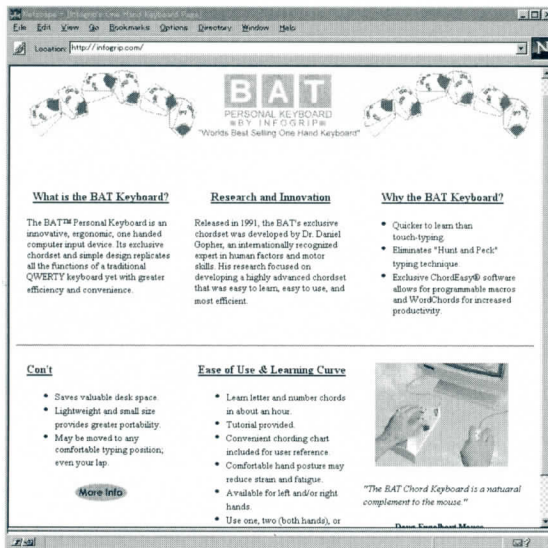
キー入力の操作方法を習得するには多少時間がかかるが、一度覚えてしまえば、片手のみですべての文字が入力できるので、かなり効率的といえるだろう。

なお、Infogrip社ではホームページを開設しており、今回ご紹介したBATキーボードも掲載されているので、興味がある方はご覧いただきたい(画面2)。URLは、以下のとおりである。

<http://infogrip.com/>

このホームページを見ると、PC/AT用のBATキー





画面2 Infogrip社のホームページ



写真13 BATキーボードにDATALUX社製のSpace Saver Keyboardをカスケード接続したところ

ボードは、ともに199ドルと記載されていた。

今回ご紹介したのは、96年3月に秋葉原のT-Zoneで4980円で購入したものである。Windows 95には未対応と記されていたが、とくに問題なく使用することができた。また、BATキーボードにDATALUX社製の「Space Saver Keyboard」をカスケード接続して使用してみたが、これも問題なく動作した(写真13)。

エルゴノミックキーボードの情報は関連のホームページで入手しよう

以下に、エルゴノミックキーボード関連のホームページのURLを掲載しておく。

● <http://www.teleprint.com/>

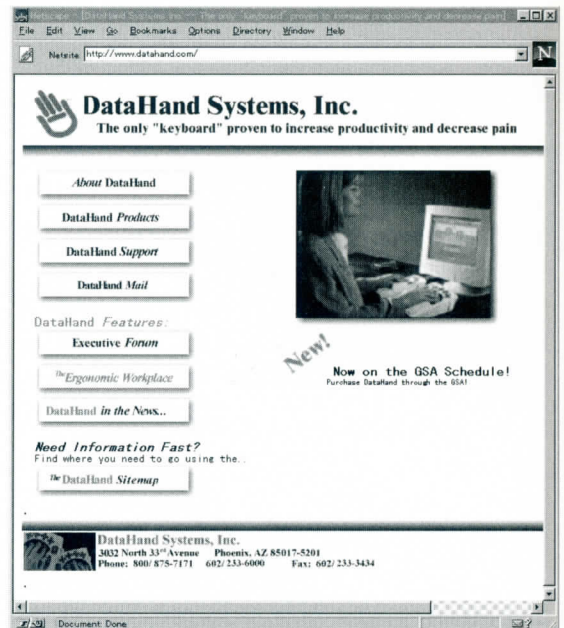
Teleprint社のホームページ。Maltron Ergonomic Keyboardの詳細な解説が掲載されている(画面1)。

● <http://infogrip.com/>

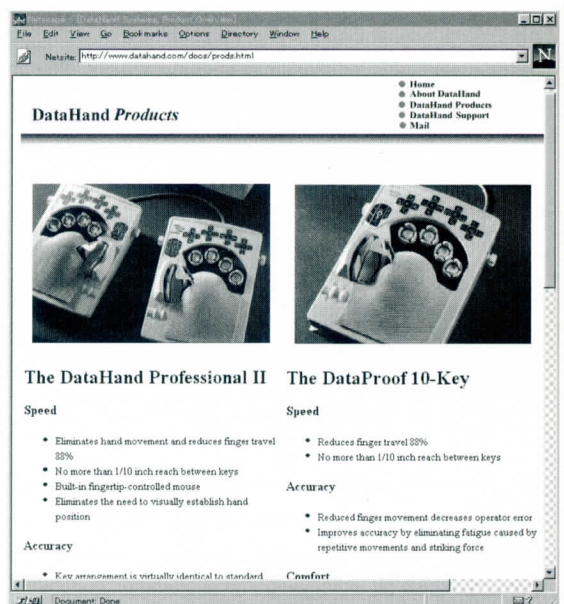
Infogrip社のホームページ(画面2)。BAT Personal Keyboardの詳細な解説が掲載されている(<http://infogrip.com/homepg.htm>、<http://infogrip.com/moreinfo>

注11)「The DataHand Professional II」

強烈なデザインの手キーボードなので、ぜひご覧いただきたい。このページによると、指の移動量が88%も減少されているとのことだ。



画面3 Data Hand Systems社のホームページ



画面4 The DataHand Professional IIのページ

.htm)。

● <http://www.datahand.com/>

DataHand Systems社のホームページ(画面3)。このDataHand Productsのページ(<http://www.datahand.com/docs/prods.html>)では、同社の超ユニークなキーボード、「The DataHand Professional II」(注11)が掲載されている(画面4)。

● <http://www.ergo-sum.com/>

エルゴノミックキーボード関連の情報を集めたホームページ。

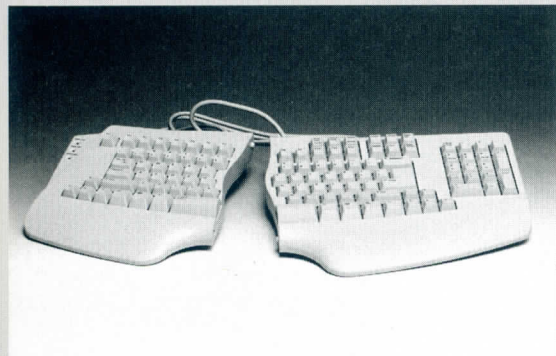


●BTC社製キーボード「モデル8120」

本誌1月号の特集「キーボードにこだわる!」には取り上げられていなかったで、ここでBTC社製の「モデル8120」キーボードをご紹介します。

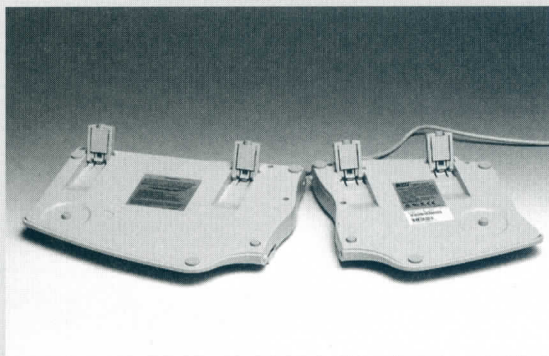
このキーボードは、ご覧のとおり左右に分離できるようになっている(写真D)。分離することによって、左手部分と右手部分を適切な位置に設置できるというものだ。

キーの数は、左手部分が41個、右手部分が68個の合計109個となっており、テンキーは右手部分に配置されている。また、カーソルキー、Windowsキー、AltキーおよびCtrlキーは左右両方に配置され、スペースバーは左右に分断されている。キーボードは、左右両方とも角度をつけて設置できる(写真E、F)。キーは、クリック感がないタイプだ。

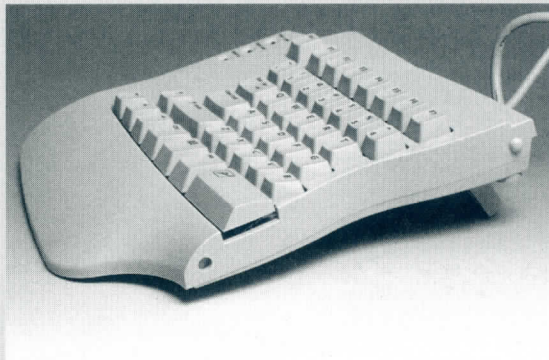


写真D BTC社製モデル8120 キーボードの外観

なお、このキーボードは、97年1月に秋葉原の万世橋近辺にあるショップ「パソコン工房秋葉原1号店」にて、5980円で購入した。



写真E BTC社製モデル8120 キーボードの裏面



写真F 角度をつけて設置できる

このなかのページ(<http://www.ergo-sum.com/alternatives/teleprint.htm>)には、MaltronキーボードやKinesis



画面5 ERGO SUM 社のホームページ

社キーボードについての情報も掲載されているのだが、ときどきアクセスできないことがある(画面5)。

●<http://web.mit.edu/atic/www/>

Adaptive Technology for Information and Computing at MIT のホームページ。

このなかの「Keyboards and Alternative Input Devices」のページ(<http://web.mit.edu/atic/www/keyboards.html>)には、Maltron、Kinesis、BATキーボードなどの価格、問い合わせ先の情報が掲載されている。

●<http://www.safecomputing.com/>

Safe Computing 社のホームページ。

このなかの「Alternative Keyboards」のページ(<http://www.safecomputing.com/keyboard.htm>)には、Maltron Keyboard や Kinesis Keyboard をはじめとするさまざまなエルゴノミックキーボードの情報が掲載されている。

